

五島市奈留地区
地域公共交通利便増進実施計画

令和4年3月

五 島 市

目 次

第1章 本計画の趣旨	1
第2章 これまでの五島市の取組み(奈留地区関係)	2
(1) 前島航路の整備と運航	2
(2) 基幹航路と一体となった奈留島内交通の整備と運行	4
第3章 地域公共交通計画に基づく本計画の考え方	8
(1) 前島住民・奈留地区住民における外出実態	8
(2) 前島住民の奈留島内・福江島内の公共交通の乗継移動の検証	9
(3) デマンド運航便と臨時便の状況	11
(4) 本計画における基本的考え方	12
(1) 事業の全体像	13
(2) 事業の実施区域	13
(3) 事業の実施予定期間	14
(4) 事業の実施に必要な資金の額及び調達方法	14
(5) 地方公共団体による支援の内容	14
第5章 実施事業の詳細	15
(1) 事業の内容及び実施主体	15
(2) 事業の効果	19

第1章 本計画の趣旨

五島市（以下「本市」という。）は、平成16年8月1日に下五島地域の福江島と約20km離れた場所に位置する奈留島などの11の有人島と52の無人島で構成されている1市5町が合併し誕生したまちである。

全国的に人口減少や少子高齢化の進行している中、五島市においても同様に、人口減少や少子高齢化が問題となっている。

公共交通を取り巻く環境についても、利用者の減少等から経営環境は厳しく、国県支出金等に大きく依存する極めて脆弱な経営状況にあり、公共交通を維持するための市の補助金額も増加傾向にある。特に、奈留島を中心とする本市北部の奈留地区においては、基幹産業である漁業の衰退により、人口減少や少子高齢化による社会問題も深刻な状況になりつつある。

このような状況下においても、奈留地区の前島住民が日常生活を営む上で前島航路の存続は必要不可欠なものである。そのため、誰もが利用しやすく、かつ、持続可能な公共交通サービスを提供していくことを目指し、本計画を策定するに至った。

なお、本計画は、五島市地域公共交通計画（令和4年4月策定）に即して実施されるものであり、五島市地域公共交通再編実施計画（平成28年7月策定）、五島市奈留地区地域公共交通利便増進実施計画（令和3年9月策定）（両計画を以下「前計画」という。）の後継となるものである。

第2章 これまでの五島市の取組み(奈留地区関係)

前計画においては、五島市地域公共交通網形成計画に示された理念や方針に基づいて本市の地域公共交通の再編を実施するために、エリア別に以下の4つに区分した上で、10の事業を実施した。

- A：福江島北部地域の一体的再編
- B：福江島南部地域の一体的再編
- C：奈留地区の一体的再編
- D：その他

このうち、奈留地区においては、以下の2つの事業が実施された。

- C-①：前島航路の整備と運航
- C-②：基幹航路と一体となった奈留島内交通の整備と運航

(1) 前島航路の整備と運航

奈留島と同島の南 1.6km に位置する前島との間を結ぶ「奈留島～前島航路」では、昭和 37 年から奈留町営交通船が、平成 16 年の市町村合併後は五島市営交通船が運航を行っていた。しかし、前島の人口減少に伴う航路利用者数の低迷を踏まえ、前計画において、需要に応じつつ、利用者の利便性を損なわない運航形態として、民間の船舶を用船した予約制運航（デマンド運航）へ移行することとした。

前計画の下、平成 28 年 10 月より旅客最大人数 12 名以下の非旅客船を用いた貨物定期航路事業への再編及びデマンド運航への移行を実施した。その結果、大幅な赤字解消、利用者数の需要に応じた 1 便当たりの適正な乗船者数及び効率的な運航が可能となった。

■事業の目標(前計画策定時)

利用者数 (H27 年度)	4,212 人
利用目標値 (R2 年度)	3,334 人

※ 航路事業の補助年度（10 月～9 月）の数値を記載。

■事業の実績

利用者数		評価
H28 年度	4,166 人	利用目標値 (3,334 人) を達成し、かつ事業実施前 (H27) を上回る
H29 年度	4,178.5 人	利用目標値 (3,334 人) を達成
H30 年度	4,386.5 人	利用目標値 (3,334 人) を達成し、かつ事業実施前 (H27) を上回る
H31/R1 年度	4,511 人	利用目標値 (3,334 人) を達成し、かつ事業実施前 (H27) を上回る
R2 年度	4,241 人	利用目標値 (3,334 人) を達成し、かつ事業実施前 (H27) を上回る

※ 航路事業の補助年度（10 月～9 月）の数値を記載。

■事業費の目標と調達方法(前計画策定時)

運航経費	20,432 千円
経費合計	20,432 千円
運賃収入	756 千円
五島市 【うち補助金想定額】	19,676 千円 【国 9,838 千円】 【県 4,919 千円】
収入合計	20,432 千円

■事業費の実績

	H28 年度	H29 年度	H30 年度
運航経費	21,681 千円	20,195 千円	19,923 千円
経費合計	21,681 千円	20,195 千円	19,923 千円
運賃収入	885 千円	867 千円	931 千円
特別利益	—	—	415 千円
五島市 【うち補助金の額】	20,796 千円 【国 11,913 千円】 【県 4,429 千円】	19,328 千円 【国 12,296 千円】 【県 3,499 千円】	18,577 千円 【国 4,373 千円】 【県 7,067 千円】
収入合計	21,681 千円	20,195 千円	19,923 千円

	H31/R1 年度	R2 年度
運航経費	19,967 千円	19,936 千円
経費合計	19,967 千円	19,936 千円
運賃収入	964 千円	913 千円
五島市 【うち補助金の額】	19,003 千円 【国 5,157 千円】 【県 6,892 千円】	19,023 千円 【国 4,302 千円】 【県 7,323 千円】
収入合計	19,967 千円	19,936 千円

※ 航路事業の補助年度（10月～9月）の数値を記載。

※ 特記事項：平成30年度の特別利益415,000円は、本航路に使用していた船舶の売却益。

(2) 基幹航路と一体となった奈留島内交通の整備と運行

奈留島の島内交通については、路線バス及び予約制乗合タクシーが存在するが、同島の人口減少に伴う利用者の減少、福江方面の定期航路との接続の悪さに起因する利用率の低迷等が生じていた。そこで、前計画において、奈留島中心部での通院の利便性や福江方面の定期航路との接続を重視した一体的なダイヤ編成を行うとともに、需要に応じた便数・ルートの見直し、乗合タクシー路線の路線バス路線への統合、路線バスから乗合タクシーへの転換等を実施することにした。

前計画の下、平成 29 年 4 月より、奈留島内の路線バスであった大林線を廃止し、予約制乗合タクシーでの運航に再編した。一方、汐池線を増設することにより利用者数の改善と住民のニーズに応じた利便性の向上と効率化を図り、基幹航路と一体となった奈留島内交通の整備と運航については、一定の効果はあげた。

しかし、奈留地区の人口減少に歯止めがかからず、利用需要の減少が想定されるため、引き続き、奈留島内の地域公共交通の抜本的な改革が必要となっている。

■事業の目標(前計画策定時)

利用者数 (H27 年度)	11,421 人
利用目標値 (R2 年度)	11,700 人

※ バス事業の補助年度 (10 月～9 月) の数値を記載。

■事業の実績

利用者数		評価
H28 年度	14,582 人	利用目標値 (11,700 人) を達成
H29 年度	13,231 人	利用目標値 (11,700 人) を達成
H30 年度	12,668 人	利用目標値 (11,700 人) を達成
H31/R1 年度	12,655 人	利用目標値 (11,700 人) を達成
R2 年度	10,999 人	利用目標値 (11,700 人) を未達成

※ バス事業の補助年度 (10 月～9 月) の数値を記載。

■事業費と調達方法(千円)

運航経費	17,547 千円
経費合計	17,547 千円
運賃収入	2,762 千円
五島市	7,394 千円
【うち補助金想定額】	【国—千円】
事業者	7,391 千円
【うち補助金想定額】	【国 7,391 千円】
収入合計	17,547 千円

■事業費の実績

	H28 年度	H29 年度	H30 年度
運航経費	20,741 千円	19,508 千円	20,161 千円
経費合計	20,741 千円	19,508 千円	20,161 千円
運賃収入	2,743 千円	2,823 千円	2,449 千円
五島市 【うち補助金の額】	17,998 千円	15,705 千円	17,712 千円
事業者 【うち補助金想定額】	—	980 千円 【国 980 千円】	—
収入合計	20,741 千円	19,508 千円	20,161 千円

	H31/R1 年度	R2 年度
運航経費	21,248 千円	20,968 千円
経費合計	21,248 千円	20,968 千円
運賃収入	2,374 千円	2,092,千円
五島市 【うち補助金の額】	18,000 千円	16,377 千円 【市 89 千円】
事業者 【うち補助金想定額】	874 千円	2,500 千円 【国 2,500 千円】
収入合計	21,248 千円	20,968 千円

※ バス事業の補助年度（10月～9月）の数値を記載。

※ 特記事項：令和2年度の五島市の支出額のうち、市による補助金とは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う需要減への対応を目的とした、本市の「五島市緊急経済対策事業継続支援金」によるもの。

表 網計画期間中の前島航路の状況

			H28	H29	H30	H31・R1	R2
小荷物(件数)			1,068	1,141	1,504	1,663	1,603
小荷物(収入)			110,660	87,600	116,140	124,650	121,000
奈留島 ↷ 笠松	大人	普通(件数)	2,864	299	263	347	130
		普通(収入)	515,520	53,820	47,340	62,460	23,400
		割引(件数)	0	2,516	2,823	2,742	2,680
		割引(収入)	0	377,400	423,450	411,300	402,000
	小人	普通(件数)	4	3	1	3	4
		普通(収入)	360	270	90	270	360
		割引(件数)	0	0	4	5	0
		割引(収入)	0	0	320	400	0
奈留島 ↷ 前島	大人	普通(件数)	798	851	647	702	691
		普通(収入)	159,600	170,200	129,400	140,400	138,200
		回数券(件数)	450	510	550	700	730
		回数券(収入)	90,000	102,000	110,000	140,000	146,000
	小人	普通(件数)	70	2	2	6	4
		普通(収入)	7,000	200	200	600	400
		回数券(件数)	0	0	0	0	0
		回数券(収入)	0	0	0	0	0
笠松 ↷ 前島	大人	普通(件数)	17	0	8	13	6
		普通(収入)	2,380	0	1,120	1,820	840
	小人	普通(件数)	0	0	0	0	0
		普通(収入)	0	0	0	0	0
小計(件数)			4,203	4,181	4,298	4,518	4,245
小計(収入)			774,860	703,890	711,920	757,250	711,200
運行回数	定期運航			330	324	328	324
	臨時運航			2	1	4	3
	デ マ ン ド	1便		327	321	317	320
		3便		251	240	246	255
	小計			0	910	886	895

表 前島航路の航路損益計算書

科目\期間区分		H28	H29	H30	H31・R1	R2
収益	運航収益	885,520	866,900	931,210	964,210	912,600
	1.旅客運賃	774,860	779,370	814,930	839,560	791,600
	2.手荷物運賃					
	3.小荷物運賃	110,660	87,530	116,280	124,650	121,000
	4.自動車航送運賃					
	5.貨物運賃					
	6.郵便・信書便航送料					
	7.雑収入					
	営業収益	0	0	415,000	0	0
	1.航路附属施設収入					
2.雑収入			415,000	0	0	
収益計		885,520	866,900	1,346,210	964,210	912,600
費用	運航費用	14,302,857	339,532	266,088	207,708	210,415
	1.旅客費	134,328	128,360	169,152	143,340	116,340
	(1)旅客歩金					
	(2)傷害保険料	116,400	72,200	86,640	86,640	86,640
	(3)雑費	17,928	56,160	82,512	56,700	29,700
	2.手荷物取扱費					
	3.小荷物取扱費					
	4.自動車航送取扱費					
	5.貨物費					
	6.郵便・信書便取扱費					
	7.燃料潤滑油費	1,208,570	0	0	0	0
	8.養缶水費	16,886	11,707	918	0	0
	9.港費	46,512	0	0	0	0
	(1)税金及び手数料					
	(2)水先及び係留料等	46,512	0	0	0	0
	(3)代理店手数料					
	10.雑費					
	11.船費	12,896,561	199,465	96,018	64,368	94,075
	営業費用	7,370,042	19,855,830	19,657,834	19,760,275	19,725,825
	1.保険料	76,320	0	0	0	0
	2.税金					
	3.利子					
4.減価償却費						
5.賃借(用船)料	0	14,347,060	13,968,676	14,110,570	14,220,932	
(1)船舶		14,347,060	13,968,676	14,110,570	14,220,932	
(2)航路附属施設						
6.航路附属施設費						
7.店費	7,293,722	5,508,770	5,689,158	5,649,705	5,504,893	
費用計		21,672,899	20,195,362	19,923,922	19,967,983	19,936,240
差引当期純利益(純損失)		△ 20,787,379	△ 19,328,462	△ 18,577,712	△ 19,003,773	△ 19,023,640
(国庫補助金)						
(都道府県補助金)						
(市区町村補助金)						
経常収益		885,520	866,900	1,346,210	964,210	912,600
経常費用		21,672,899	20,195,362	19,923,922	19,967,983	19,936,240
経常損益		△ 20,787,379	△ 19,328,462	△ 18,577,712	△ 19,003,773	△ 19,023,640
経常収支率		4.09%	4.29%	6.76%	4.83%	4.58%

第3章 地域公共交通計画に基づく本計画の考え方

地域公共交通計画では、基本方針として「①効率的で利便性の高い公共交通ネットワークの形成」と「②公共交通に関する意識醸成と地域・事業者・行政が連携した利用促進策の展開」を掲げており、このうち、①については、誰もが便利で快適に移動できる生活環境を創出するため、路線バスや乗合タクシー等をはじめとする多様な陸上交通と、航路及び空路が有機的に連携した効率的で利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークを構築することとされている。

このうち、航路の維持・効率化・利便性向上や陸・海・空のアクセスの利便向上にかかる MaaS 等の検討等を見据え、その上で、本計画においては、更なる効率性・利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークの実現を目指し、地域公共交通利便増進事業を行うこととする。

事業実施にあたり、令和3年度に実施した奈留地区住民アンケート結果や公共交通の接続状況、その他定量的な評価を踏まえて、本計画における基本的な考え方を示す。

(1) 前島住民・奈留地区住民における外出実態

前島住民は、買い物は週1回以上の頻度が多く、買い物先は奈留島内（特にフジヤセンター）が多い。通院は月1～2回が多く、通院先は奈留島内が一定程度あるものの、福江島内が比較的多い。これらの傾向は奈留地区住民（全体）と類似するものと異なるものがある。

特に、外出時間帯については、奈留地区住民（全体）が外出目的や外出場所によって、移動時間帯が若干異なる傾向にある中で、前島住民は前島航路の運航ダイヤと連動した外出（つまり7・11時台に外出が集中）となっている。

→つまり、前島住民は前島航路の行きの7・11時台に乗船しての外出が突出して多い状況にあり、その外出動向を踏まえた公共交通の乗継利便性の向上が課題。

表 奈留地区住民（全体）と前島住民の買物・通院の頻度

< 買い物 >

	地区全体	前島住民
ほぼ毎日	16.3%	
週4回以上	10.8%	
週2、3回	47.4%	33.3%
週1回	25.2%	33.3%
その他	0.3%	33.3%
無回答	0.0%	

< 通院 >

	地区全体	前島住民
ほぼ毎日	0.0%	
週4回以上	0.8%	
週2、3回	2.2%	
週1回	3.3%	
月2回	10.7%	40.0%
月1回	56.0%	60.0%
その他	27.0%	

表 奈留地区住民（全体）と前島住民の買い物場所

<買い物場所>

	地区全体	前島住民
奈留	84.7%	75.0%
福江	13.4%	25.0%
家族が代行	0.2%	
便利カー・配送	1.7%	

<奈留地区の買物先>

	地区全体	前島住民
ココマート	34.3%	
すずらん	34.4%	16.7%
フジヤセンター	27.8%	66.6%
その他	3.4%	16.7%

表 奈留地区住民（全体）と前島住民の通院場所

<通院場所>

	地区全体	前島住民
奈留島内	59.1%	38.5%
福江島内	37.8%	61.5%
長崎市内	2.4%	
その他	0.7%	

<奈留地区の通院先>

	地区全体	前島住民
奈留病院	60.3%	100.0%
宿輪医院	27.9%	
奈留歯科医院	11.8%	

注) 福江島内は五島中央病院を指す

表 奈留地区住民（全体）と前島住民の外出時間帯（奈留島内・福江島内への外出）

	奈留島に外出するケース				福江島に外出するケース			
	買物		通院		買物		通院	
	地区全体	前島住民	地区全体	前島住民	地区全体	前島住民	地区全体	前島住民
6時台	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	4.1%	0.0%	14.3%	0.0%
7時台	2.1%	71.4%	8.9%	83.3%	27.0%	100.0%	42.0%	83.3%
8時台	3.8%	0.0%	37.3%	16.7%	32.2%	0.0%	24.9%	0.0%
9時台	19.4%	0.0%	24.9%	0.0%	5.5%	0.0%	2.2%	0.0%
10時台	22.6%	0.0%	14.6%	0.0%	14.3%	0.0%	1.2%	0.0%
11時台	11.7%	28.6%	4.3%	0.0%	7.4%	0.0%	0.2%	0.0%
12時台	2.3%	0.0%	1.1%	0.0%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%
13時台	4.5%	0.0%	3.2%	0.0%	3.3%	0.0%	0.5%	0.0%
14時台	14.7%	0.0%	4.3%	0.0%	3.3%	0.0%	1.4%	0.0%
15時台	7.7%	0.0%	0.3%	0.0%	1.9%	0.0%	0.2%	0.0%
16時台	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
17時台	3.5%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
18時台	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19時以降	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(2) 前島住民の奈留島内・福江島内の公共交通の乗継移動の検証

① 前島住民の奈留島内を往来する際の公共交通の接続状況

前島住民が奈留島へ外出する場合、7時台は前島港から奈留支所（役場前バス停）まで、トータル25分で到着するものの、11時台はトータル50分となっており、7時台の2倍の時間を要してしまうことが分かった。

さらには、帰りは前島航路の全4便に対して14時台の船便のみがバスとの接続が可能となっており、それ以外は30分を超える待ち時間が生じていることになる。

→つまり、調査により外出実態が確認された【行きの11時台】のバス接続利便性向上が課題。

表 前島住民が奈留島へ外出する際の行き・帰りの公共交通の接続状況確認結果

■前島住民が奈留島(市街地)へ外出する

〈行き〉

船			奈留バス		
前島港発	奈留港着		奈留港発	役場前着	路線
7:10	7:25	→	7:30	7:35	南越線
11:00	11:15	→	11:45	11:50	南越線
15:00	15:15	→			

〈帰り〉

奈留バス				船	
役場前発	奈留港着	路線		奈留港発	前島港着
			→	10:20	10:35
13:55	14:00	汐池線	→	14:20	14:35
			→	17:20	17:35
			→	18:20	18:35

※冬期のみ

※夏季のみ

②前島住民の福江島内を往来する際の公共交通の接続状況

前島住民が福江島へ外出する場合、行きの7時台と11時台は接続がとれているが、帰りの前島航路の14時台と17時台の船便の接続はとれていない状況にある。

→つまり、【帰りの前島航路の船便に接続できる五島病院から福江港行き】のバス接続利便性向上が課題。

表 前島住民が福江島（五島病院）へ外出する際の行き・帰りの公共交通の接続状況確認結果

■前島住民が福江島(市街地)へ外出する

〈行き〉

船			船			五島バス		
前島港発	奈留港着		奈留港発	福江港着		福江港発	五島病院着	路線
		→	6:35	7:20	→	7:20		7
						7:35	7:48	8
						7:50		6
						7:50		7
						8:20		6
7:10	7:25	→	7:35	8:15	→	8:25	8:42	8
						8:44	8:57	8
						9:15		7
						9:20	9:33	8
		→	8:45	9:15	→	9:30	9:40	4
						9:35		6
						9:40		9
		→	10:50	11:20	→	11:20	11:32	6
						11:40	11:57	8
						12:25	12:35	3
11:00	11:15	→	11:30	12:15	→	12:30		9
						12:35		7
		→	14:20	14:50	→	15:00		7
						15:05	15:15	4
						15:10		9
15:00	15:15	→			→			
		→	15:55	16:40	→	17:05	17:15	4
						17:10		9

〈帰り〉

五島バス				船			船	
五島病院発	福江港着	路線		福江港発	奈留港着		奈留港発	前島港着
	7:39	6						
7:20	7:40	1						
	7:49	5	→	8:05	8:50	→		
7:37	7:54	4						
7:45	8:02	6						
	8:03	7						
9:26	9:44	3	→	9:45	10:15	→	10:20 10:35	
11:05	11:22	4						
	11:22	7	→	11:45	12:25	→		
	11:37	6						
	11:39	6						
	12:52	9	→	13:00	13:45	→		
			→			→	14:20 14:35	
	15:39	6	→	15:55	16:25	→		
	15:47	7						
			→			→	17:20 17:35	
	17:04	6	→	17:15	18:00	→	18:20 18:35	

※冬期のみ

※夏季のみ

(3) デマンド運航便と臨時便の状況

前島航路のデマンド運航便の予約率（稼働率）をみると、デマンド1便は各年度各月において8割以上、デマンド3便は各年度各月において概ね6割以上となっており、デマンド運航により運航効率化が図られている。

→つまり、デマンド運航や臨時便の稼働状況をみると、現状のサービス供給が妥当であることが分かった。

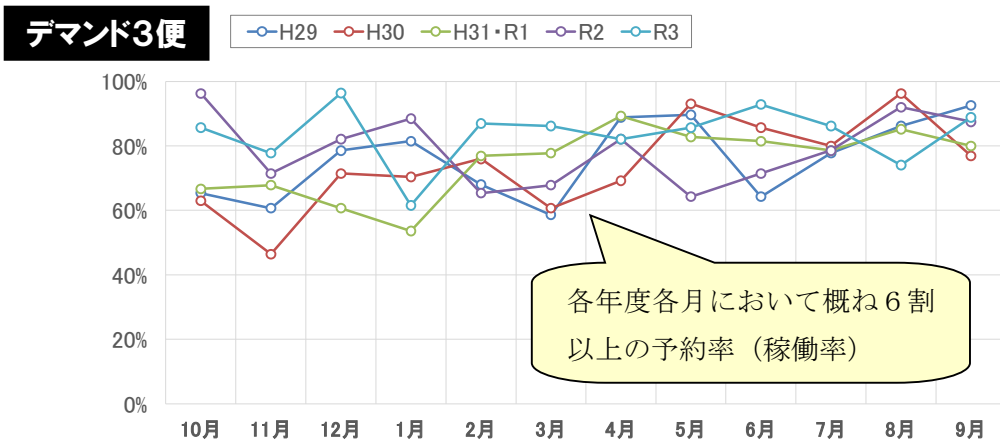
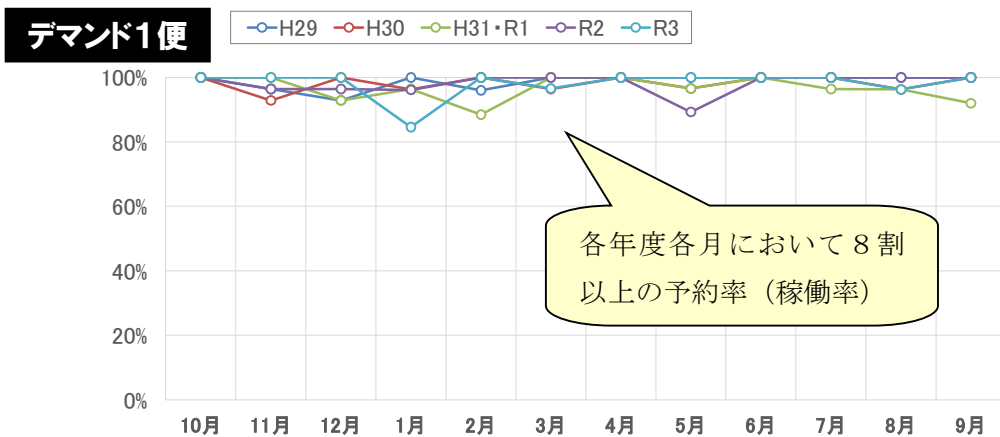


図 デマンド運航便の予約率（月別）

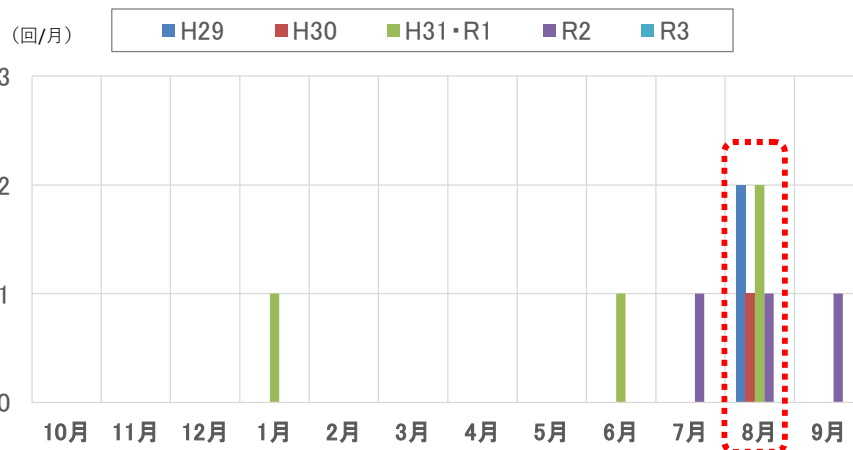


図 臨時便の運航状況（月別）

(4) 本計画における基本的考え方

■これまでの五島市の取組み（奈留地区関係）の評価

○前島航路の整備と運航

- ・非旅客船を用いた貨物定期航路事業への再編及びデマンド運航への移行を実施。
- ・大幅な赤字解消、利用者数の需要に応じた1便当たりの適正な乗船者数及び効率的な運航が可能に。
- ・利用目標値を目標達成。

○基幹航路と一体となった奈留島内交通の整備と運行

- ・奈留島内の陸上交通に対し、利用者数の改善と住民のニーズに応じた利便性と効率化を向上。
- ・コロナ前（R1年度）において、利用目標値を目標達成。
- ・しかし、奈留地区の人口減少に歯止めがかからず、利用需要の減少が想定されるため、引き続き、奈留島内の地域公共交通の抜本的な改革が必要。

○前島住民の外出実態と公共交通の接続状況の関係性

- ・前島住民は行きの7・11時台に乗船しての外出が突出して多い状況
- ・【行きの11時台】のバス接続が課題。
- ・【帰りの前島航路の船便に接続できる五島病院から福江港行き】のバス接続が課題。

○デマンド運航便と臨時便の状況

- ・デマンド運航や臨時便の実態から現状のサービス供給が妥当であることを確認。

本計画の基本的考え方

○前島住民の移動利便性の確保と航路の持続性向上にあたっては、

- 既存の運航ダイヤを現状維持しつつ
- 地域公共交通計画事業と連動させ、情報発信の強化等を行いつつ
- 市民・来訪客にわかりやすい公共交通サービスとし、
- 分かりやすさ向上と航路自体を運行持続性の維持向上を図るため適正な運賃設定（統一運賃の採用と運賃の値上げをセットで実施）し
- 奈留島内や福江島内のバスの接続強化を図る

こととする。

第4章 実施事業の概要

(1) 事業の全体像

本計画に基づき実施する地域公共交通利便増進事業は、以下のとおりである。

実施地域	事業名	事業内容	公共交通計画との関係
奈留地区	航路の維持・効率化・利便性向上	市営交通船については、料金改定も含めた収支改善を行い持続可能な航路とするとともに、島外からの利用者にとっても利便性が高い航路となることを目指す。	7-3-1

(2) 事業の実施区域

本計画に規定する地域公共交通利便増進事業の実施区域は、本市のうち奈留地区とする。



(3) 事業の実施予定期間

本計画に規定する地域公共交通利便増進事業の実施予定期間は、地域公共交通計画の計画期間に合わせ、令和4（2022）年4月～令和9（2027）年9月までとする。

(4) 事業の実施に必要な資金の額及び調達方法

① 資金計画

本計画に規定する地域公共交通利便増進事業に関する資金計画は、以下のとおりである。

計画実施前（令和2年度実績）						
収入	支出	収支	公的負担額			
			国	県	市	小計
805	14,564	-13,759	4,303	7,383	2,073	13,759

計画実施後						
収入	支出	収支	公的負担額			
			国	県	市	小計
1,089	14,904	-13,815	3,998	7,530	2,287	13,815

② 活用を予定している補助金等

本計画の策定時点で想定される補助金等は、以下のとおりである。

路線名	活用を予定している補助金等
前島航路	・地域公共交通確保維持改善事業費補助金（離島航路運営費等補助金）（国） ・長崎離島航路事業対策補助金（長崎県） ・国境離島航路運賃軽減事業県負担金（長崎県）

(5) 地方公共団体による支援の内容

本市は、本計画に規定する地域公共交通利便増進事業の実施に当たり、市ホームページ、広報誌等による交通関連情報の発信を行う。また、利用実態や需要規模に応じた移手段の確保のために、市民との協議の場をつくり、市民からの意見を募集する。

そのほか、路線バス事業者、タクシー事業者、航路事業者などの関係事業者との調整、国や県などの関係機関との調整等を実施する。

第5章 実施事業の詳細

(1) 事業の内容及び実施主体

事業名	航路の維持・効率化・利便性向上
運航のねらい	デマンド運航便と臨時便の状況（P11 参照）によると、前島住民の外出実態に合致したサービスを実施しているため、既存の運航ダイヤを現状維持し、地域公共交通計画と連動させ、情報発信の強化等を行いつつ、市民・来訪客にわかりやすい公共交通サービスとし、その一環として、わかりやすさ向上と航路自体を運航持続性の維持向上を図るため、適正な運賃設定（定額運賃の採用と運賃の値上げ、往復割引の新設）に見直す。
対応させる移動目的	奈留島中心部への通院、買い物、福江方面行定期航路への乗り継ぎ
起終点・運航距離	前島—笠松—奈留島港（4.4km）
事業主体	五島市
事業形態	人の運送をする内航貨物定期航路事業 （第1便及び第3便は予約制運航、第2便は定期運航。）
運航日	通年（第1、3、5日曜日及び元日は運休）
使用船舶	民間船舶（旅客定員12名以下）を用船して使用

■事業の目標

利用者数（R2年度）	4,241人
利用目標値（R9年度）	4,600人以上

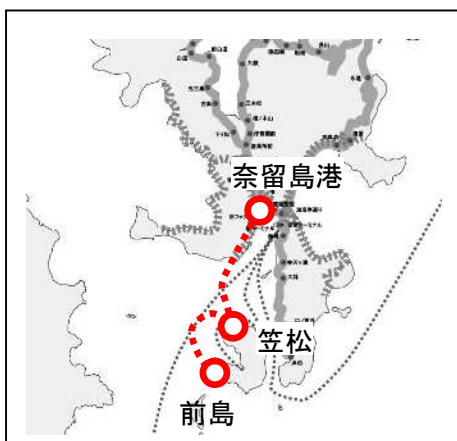
※ 航路事業の補助年度（10月～9月）の数値を記載。

■事業費と調達方法

運航経費	19,936千円
経費合計	19,936千円
運賃収入	913千円
五島市 【うち補助金想定額】	19,023千円 【国4,302千円】 【県7,323千円】
収入合計	19,936千円

■運航ルート、運航系統図

本事業の実施により、運航ルート及び運航系統の変更は生じない。



■各系統の概要

本事業の実施により、運航系統の変更は生じない。

系統1: 奈留島港～前島航路		
概要	起点	前島
	終点	奈留島港
	主な経由地	笠松
	キロ程	4.4km
寄港地数	3	
船舶	民間船舶（旅客定員12名以下）を用船して使用	
運賃	改定（改定の詳細は後述）	
小荷物の運送	行う	

■寄港地の名称及び位置

本事業の実施により、寄港地の変更は生じない。

寄港地	読み	位置	系統1
1 前島	まえしま	奈留町泊 476-2 地先	○
2 笠松	かさまつ	奈留町泊 412-9 地先	○
3 奈留島港	なるしまこう	奈留町泊 133-21	○

■運航ダイヤ

本事業の実施により、運航ダイヤの変更は生じないものの、将来に渡り奈留地区の陸上交通を含め、一体的な利便性向上のための運航ダイヤ等を検討する必要がある。

(現行)

	前島 発	笠松 発着	奈留島港 着	奈留島港 発	笠松 発着	前島 着
1便	7:10	7:18	7:25	10:20	10:27	10:35
2便	11:00	11:08	11:15	14:20	14:27	14:35
3便(夏季)	15:00	15:08	15:15	18:20	18:27	18:35
3便(冬季)				17:20	17:27	17:35

※ 夏季は、4月から9月まで。冬季は、10月から3月まで。

※ 第1便及び第3便は、デマンド運航（予約のない便は運休する）

※ 第1、3、5日曜日及び元日は全便運休。

※ 必要に応じて、臨時運航を行う。

(参考:基幹航路との接続)

奈留島港着 (前島航路)	奈留島港発 (基幹航路)		奈留島港着 (基幹航路)	奈留島港発 (前島航路)
7:25	7:35 福江港 (野母商船)	1便	8:50 福江港 (OCEAN) 10:15 福江港 (ニューたいよう)	10:20
11:15	11:30 福江港 (OCEAN) 12:35 長崎港 (九州商船)	2便	12:25 福江港、 長崎港 (九州商船) 13:45 福江港 (OCEAN)	14:20
15:15	15:55 福江港 (OCEAN)	3便 (夏季)	16:25 福江港 (ニューたいよう) 18:00 福江港 (OCEAN)	18:20
		3便 (冬季)	16:25 福江港 (ニューたいよう)	17:20

■奈留島・前島航路 運賃表

(現行)

1)普通乗船運賃

区分	単位	奈留⇄笠松 (2.4 km)	前島⇄奈留 (4.4 km)	笠松⇄前島 (2.0 km)
大人	1人片道	180円	200円	140円
小児	1人片道	90円	100円	70円

備考：回数券を利用する場合は、券片数 11 枚でこの表の運賃の 10 倍の額

奈留・前島	回数券額面 200円 11枚綴	2,000円
奈留・笠松	回数券額面 180円 11枚綴	1,800円
笠松・前島	回数券額面 140円 11枚綴	1,400円

2)定期乗船運賃

種別	期間	運賃
通勤定期	1月	大人の普通乗船運賃の60倍の額からその4割に相当する額を控除して得た額
通学定期	1月	大人の普通乗船運賃の60倍の額からその6割に相当する額を控除して得た額

備考：上表の額に10円未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

(本計画による変更)

1)片道乗船運賃

区間	単位	大人		小児	
		普通	回数券	普通	回数券
奈留⇄笠松 (2.4 km)	1人につき	220円	2,200円	110円	1,100円
前島⇄奈留 (4.4 km)					
笠松⇄前島 (2.0 km)					

備考：回数券を利用する場合は、券片数 11 枚でこの表の運賃の 10 倍の額

2)往復乗船運賃(新設)

区間	単位	大人	小児
奈留⇄笠松 (2.4 km)	1人につき	360円	180円

3)定期乗船運賃

種別	期間	運賃
通勤定期	1月	算出方法変更なし
通学定期	1月	算出方法変更なし

(補足説明) 前島航路における定額運賃の考え方の背景

現在、奈留島～前島航路の市営交通船事業は、収入が約 100 万円程度に対し、支出が約 2,000 万円程度あるため、毎年約 1,900 万円程度の収支損失が計上され、国・県の補助金及び市の一般会計からの繰入金により、事業を継続している状況である。

将来も引き続き安定した住民サービス、つまり奈留島～前島航路における市営交通船事業を将来も引き続き安定的に提供できるよう、収支改善を実施する必要がある。

このため、①分かりやすい運賃体系、②航路が将来的に持続可能となる運賃体系、③島民だけでなく全利用者を勘案した運賃体系、を柱として運賃を検討することとし、定額運賃として運賃を増額することで、少しでも収支改善が図られ、将来にわたり安定して継続的な住民サービス（市営交通船の運航）を提供することが可能になるため、広く住民全体の利便増進に繋がる。

(2) 事業の効果

運賃改定により収入が改善されることで、航路の持続可能性が高まる一方、利用者への還元として往復割引を新設することにより、島外からの利用者にとっても利便性が高い航路となる。

指標	目標数値
前島航路の利用者のうち、本事業の実施前に比べて満足度が向上したと回答した者の割合	50%

五島市奈留地区地域公共交通利便増進実施計画

令和4年4月策定

五島市
